

粕谷和夫より。キンクロハジロがいた池の近くに赤い実が目立つ低木がありました。チャットGPTに訪ねてみると、クロガネモチと回答がありました。しかしこの実はどう見てもクロガネモチではありません。改めて図鑑で調べてソヨゴと認定しました。「葉は波打つ、株立ちする、実はまばら」図鑑の説明通りです。AIに勝ったような気がしました。

紅葉台



新聞

第222号

2026年

2月21日

発行人：関谷 孝

粕谷和夫の観察日記



横浜市の都筑中央公園に今後の自然観察会の下見に行ってきました(12月26日)。横浜線中山駅で横浜市営地下鉄グリーンラインに乗換えセンター南駅で下車、徒歩10分。ここは港北ニュータウンの一角で多摩丘陵の雑木林が残されて公園化した所。谷戸の大池にはキンクロハジロ、カイツブリが羽を休めていました。下の写真は休憩所で左後ろの黄色の実の木はセンダンです。

大晦日探鳥会 城ヶ島

毎年恒例12月31日大晦日に行われる探鳥会。参加者13名(20歳学生、案内者山崎さんのお孫さん含む)この日は絶好のお散歩日和。八王子から約3時間かかる三浦半島の先端城ヶ島へいざ出発。三浦半島は黒潮の影響もあり、もともと温暖なところ。汗ばむほどの陽気でした。京急「三崎口」からバスで15分ほど。三浦半島から城ヶ島へは、城ヶ島大橋を渡ります。眼下に広がる青い海は懐かしい磯の香りと開放感があります。沖合の灯台の堤防には黒い鳥がたくさん見えました。ウミウの集団です。(カワウとは嘴の付け根の黄色い模様が鋭く鋭角になっているかどうかで判断します。ウミウの方が鋭い形です)また、上空にはトビが旋回していました。トビはいつも餌を狙っています。時々ピーヨロと鳴く声は郷愁があります。

「白秋碑前」で下車。北原白秋が40歳から43歳までこの地にすみ、代表作の一つ「城ヶ島の雨」という歌を作詞しました。歌碑には「雨はふるふる城ヶ島の磯に」という歌い出しで始まる詩が刻まれています。この詩は城ヶ島の風景と、そこで感じる寂しさや切なさを歌ったものです。それまでの耽美的な作風から、自然や民衆への共感を歌う作風へと変化しました。城ヶ島での生活は、白秋の詩の世界を広げる上で、とても重要な経験になったようです。

ここから城ヶ島公園を目指します。平坦な道で舗装され整備されているので歩きやすいです。道の両側には日本スイセンが植えられていて白い花が咲き、甘い香がしていました。初めに出迎えてくれたのはイソヒヨドリのメス。海岸の崖があるところがもともとの住処なのでいて当たり前ですが、見付けると嬉しくなります。

木々にはヒヨドリ、メジロなどたくさんの野鳥の鳴き声が聞こえます。海岸によく見られるハマユウもありました。城ヶ崎公園の展望台からは、安房崎灯台の白



い三角屋根が見えました。遠く富士山が雪化粧し、房総半島や大島もよく見えました。海は広く青く漁船が波間に漂っていました。海岸沿いの竹藪が防風林のように茂り、海風を防いでい



ます。ウミウ展望台からは、赤羽海岸東側の崖にウミウ、ヒメウが千島列島から渡来していました。翌年の4月まで見ることが出来ます。数千羽にも及ぶ鶴の乱舞は冬の城ヶ島の風物詩になっています。



「三崎城ヶ島は 鶴の島島よ 潮のしぶきで鶴が育つ」断崖は幅約300m、高さ30mにわたっています。波打ち際から垂直の崖が人を寄せ付けないことから鶴の群れにとって冬季の良い生息地になっています。そぞり立った崖に数羽のウミウ、ヒメウがいました。昼時は餌をとりに出かけているので本当はもっと生息しているようです。海に潜って魚を捕るウミウのこの習性を利用したのが鶴飼いです。クロサギもいるようでしたが残念なことに今回確認はできませんでした。



しばらく歩くと馬の背洞門を崖の上から見ることが出来ました。海岸では白いウェディングを身にまとったカップルが今流行りの前撮り撮影をしていました。きっと馬の背洞門は人気なのでしょう。海岸に降りて遊ぶ人や釣りをしている人たちもたくさんいました。



途中、モニュメントコンセプトの碑がありました。日本ロマンチスト協会＆日本財団による「恋する灯台プロジェクト」に安房崎灯台と城ヶ島灯台が選ばれたことを記念したモニュメントです。その前で昼食。海が目の前に広がり、お日様が良く当たる明るく温かい場所。カップルが来て写真を撮るにはいいところですね。でも、トビが上空を舞って弁当を狙っていますので注意が必要です。現にうっかりよそ見をしていると急にトビが顔の横を通過していきました。ヒヤッとした！



そこからしばらく行くともう一つの灯台城ヶ島灯台が見えました。終点のバス停につき、バスが来るまで海岸で探鳥をしました。粕谷会長からウミウとウミネコ、ユリカモメ、セグロカモメのちがいを教えてもらい双眼鏡で確認をしました。「ウミネコは黒い尾羽と黄色いクチバシ、黄色の足。ユリカモメはウミネコより小さく冬羽は頭部が白い、頬に黒い模様。セグロカモメは、名前の通り背中が灰色、足はピンク、嘴は黄色、先に赤い斑点がある」と聞いてそれぞれの特徴を探して見分けました。

鳥合わせは、全部で21種。ベストは、イソヒヨドリ、ウミウ、ユリカモメ。毎年遠くまで出かける大晦日探鳥会。こんな日に非日常の楽しみが出来るのも面白いです。



余談ですが「三浦・三崎はマグロが有名」昭和の初めにマグロ漁が活況になりマグロ漁船の一大拠点です。お店もたくさんありマグロ好きにはお勧めです！！